小池都知事「だれもが子育てしやすく」 脱炭素も加速

展望2023

#地域総合 #カーボンゼロ #蓄電池・再生エネ

2023/1/1 5:00 [有料会員限定]

小池百合子知事は日本経済新聞の取材に対し、人材育成などを強化する方針を明らかにした

2022年は新型コロナウイルスの影響が続き、ウクライナ情勢によるエネルギー問題、円安などの新たな困難に見舞われた。東京都はこれらの対策に加え交通網の整備、デジタルトランスフォーメーション（DX）やグリーントランスフォーメーション（GX）などに向けた施策を打ち出した。人材育成やまちづくりなど23年の重点政策について小池百合子知事に聞いた。

――23年度予算編成のポイントや重点分野を教えてください。

「22年はこれでもかというぐらい困難の波が押し寄せた。時代が歴史的な転換点を迎えていることを意識したゲーム・チェンジが必要だ。都市活動の基盤となる安全・安心を確保し、成長の足元を固めていくことが全ての前提になる。都の環境政策を新たなステージへ導き、社会を脱炭素型へ切り替える」

「これらを先導するのは人の力だ。日本の唯一の資源と言ってもいいのが人材で、人材をどう育成し、スキルアップをしていくかということが必要。欧米を中心にニューロダイバーシティー（脳の多様性）という概念で障害の特性を生かした雇用が積極化している。障害者雇用への影響調査やトライアル雇用などで持続可能な障害者雇用のあり方を探る」

「世界に開かれた国際観光都市、デジタル先進都市など世界から選ばれる都市であり続けることも必要だ。（アジアの若手など向けの映画分野の人材育成プログラム）『タレンツ・トーキョー』もプログラムの拡充など事業を充実させ、東京の文化戦略のさらなる推進を図る」

――まちづくりや交通ネットワークの整備はどう進めますか。

「次世代の東京を世界から選ばれる都市として発展させる。臨海部のまちづくり『東京ベイeSGプロジェクト』を進め、中央防波堤エリアを最先端技術の実装地として活用する。未来に向けた都市作りに着手する」

「地下鉄ネットワークは首都機能や経済活動を支える重要な基盤で、さらなる充実が不可欠だ。東京メトロ有楽町線や南北線の延伸は開業に向けて取り組んでおり、（都心部と臨海副都心をつなぐ）都心部・臨海地下鉄の計画案も発表した。（公共交通機関など）足回りの良さは東京の魅力。海外企業の呼び込みには交通インフラが整っていることが必要で、より便利になるということは国際金融都市・東京を目指す中でもメリットになる」

小池知事はテクノロジーの発信強化などを強調した

――人材などの集積に必要なものは何ですか。

「街の魅力の総合力だ。子育てでは少子化対策が待ったなしだ。都は国の事業を先導してきたが、卵子凍結への支援や出産応援事業のさらなる充実などを検討し、だれもが子供を産み育てやすい社会を実現していく」

「これからは都市外交も強めていきたい。（持続可能性とハイテクをテーマとして発信する事業）SusHi Tech Tokyoや（世界の主要都市の首長らが参加する国際会議）G-NETSメイヤーズサミットでは、世界の各都市と連携し都市が抱える共通課題の解決策を見つけていきたい」

記者の目 都市課題の解決、具体化加速を

小池氏は外部環境が激変する現在の情勢を、しばしば1970年代のオイルショックになぞらえる。エネルギー危機で省エネ意識や技術が高まったように、次世代をリードする技術や人材・企業が東京に集まる青写真を描く。

一方、少子高齢化や気候変動など当時と異なる条件も多い。都は25年からの太陽光パネルの設置義務化など、国に先駆けた事業を打ち出せる数少ない自治体の一つといえよう。国境や官民の枠組みを超えて都市課題の解決策を急ピッチで具体化し、存在感を高めていくことが欠かせない。（牛山知也）